

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号 2014414

園 名 小平姫百合幼稚園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

光・鏡・重さ

＜テーマ設定理由＞

光や鏡など子ども達は目に入る視覚的な刺激に対しては年齢に関係なく興味を持つと考えた。また重さに関しては感覚としては理解するものの、客観的な重さの単位の存在も意識させて、重さ比べに器用身を持って欲しかった。少し難しいテーマ設定だが、女性の保育者がどのように子ども達と関わるかも興味があった。

2. 活動スケジュール

夏休み明けから子どもホールにコーナーとして設置。「実験」という少しアカデミックなネーミングを付けてスタート。運動会の用具等が準備され始めたので、9月末にいったん休止。11月25日、年長組クラス毎に「光の3原色」について分光版を使った分光器制作と光の3原色と色の3原色について約40分の授業を園長が実施。翌日は年中少組も分光器を使って光の3原色を体験。年長組と関わる。イロイロモザイクと鏡を使った構成遊びをに興味を持つ。12月初旬は発表会で実験室休止。発表会后コーナーを再設置、実験室再開。2月氷づくりが始まり、氷と水の性質(体積と重さ)について子ども達と実験。実験のいとが難しく十分に伝わらず、実験失敗。氷づくりが活動のメインとなり、今回テーマの「光・鏡・重さ」は一旦終了。

3. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

・活動のために準備した素材、道具、環境設定

素 材..紙コップ、分光板、ドングリ、貝殻他

道 具..コーナー用机、ミラースフィア、イロイロモザイク、ミラーワールド、STEM実験セット(天秤計り、錘、車、傾斜道等)、ライト

環 境..1階ホールにコーナー設置し、誰でも教材に自由に触れて、遊びに利用できる。保育者もみんなで関われる場所で、子ども達に各々自由に関われる。

活動の為にまずは子ども達が自由に教材等に触れる事のできる場所で、担任以上の教職員が各々の立場、知識で子ども達と関われることを考えて、1階のホールにコーナーとして設置。ただし通常の遊具とは違う意味を持たせる為に「じっけんしつ」とコーナー名にしスタート。こちらの意図した使い方でない遊び方だったが、見守った。少

しずつではあるが、色の組み合わせや重さを重りで比べる等の活動や鏡に映ることの不思議に興味を持つ子が現れる。

イロイロモザイクを重ね「色が変わった」「紫だ」と言ったり、「向こうにも続いている」と鏡の世界に興味を持ったり、ライトを当てて興味を示す子もいた。ただ、重さと摩擦による抵抗についての実験には全く理解がなかった。ミラースフィア(ミラーボール)に関してもその曲面に映る映像の不思議には全く興味を示す子が今回はいなかった。



4. 振り返り

遊びから科学的な気付きへどの様につなげていくか。また、各年齢により遊びへのかかわりが違うため同じ教材に対するアプローチの仕方が違う子ども達への保育者のかかわり方に難しさを感じた。ただ、年長児だけとか年少児だけの関わりだと保育者のいとは伝わりやすいが、偶発的な活動への繋がりが無くなって、子どもの主体的な関わりからの発展にならないような気がする。プロジェクト保育のように保育者のいとを持って進める事も大切だが、子どもたち自身が探求することの楽しさに気づける環境づくりと教材の在り方を考えると、今後もこの教材を好きな遊びの中で興味を持ち利用する子がいるかもしれない、いないかもしれない、というスタンスで長期で関わる必要性を感じた。科学遊びのような視点も大切だが、女性中心で文系的な大学出身者が中心の保育現場での難しさも感じた。